in company with atranorine, zeorin and undetermined substance.

Hab.: on bark of trees and on rocks.

Distr.: Japan (Hokkaido, Honsyu) and Corea.

Specim. exam.: JAPAN: **Hokkaido** Mts. Daisetu: Mt. Kurodake (Y. Asahina, in A). **Honsyu.** Prov. Mutu: Simokita peninsula, Higasidori-mura* (S. K. 550346, in K). Prov. Simotuke: Nikko (Hasimoto, in A; Y. A., in A; H. Suzuki in K). Prov. Musasi: Titibu, Mitumine, Mt. Myoho ca. 1.300 m (S. K. no. 56144, May 6, 1956—holotype in A and isotype in K); Mt. Mitumine (Y. A·, in A); Mikuni-Pass* (S. K. 51603, in K). Prov. Ettyu: Makawa (Y. A., in A). Prov. Yamato: Nara city (Y. Tanaka 803, in Ta); Summit of Mt. Oodaigahara (M. Tagawa 329, in KU); Uda-gun, Ukasi-mura (M. Tagawa 101, in KU). Prov. Kii: Mt. Koya* (Numaziri, in A and M). Prov. Inaba: Yazu-gun, Mt. Ioo (Yoshihiro Ikoma 128, in I); Yazu-gun, Okinoyama (Y. Ikoma 2703, in I); Yazu-gun, Mt. Misumi (Y. Ikoma 2500, in I); Kedaka-gun, Kozan-mura* (Y. Ikoma 6168, in I); Kedaka-gun, Suetune-mura* (Y. Ikoma 3418, in I); Tottori city* (Y. Ikoma 6085, in I); Mt. Wasimine* (Y. Ikoma 2994, in I). Prov. Hoki: Mt. Daisen (Y. Ikoma 3257, in I). COREA: Kozyo* (高城) Y. Asahina, Aug. 2, 1934, in A.

○日本産ハナヤスリの補足 (西田 誠) Makoto NISHIDA: Supplementary notes on "Japanese species of *Ophioglossum* and their nomenclature."

先に本誌上 (**34**: 33–47, 1959) に発表した"日本産ハナヤスリとその学名"という小論中で文献内容の引用に一部誤りがあつたのでそれを訂正し，それに伴つて判明した2–3の事情を補足する。

先の小論中34頁に"松村博士は帝国植物名鑑 (1904) 中でハナヤスリ *O. japonicum* Matsumura コハナヤスリ *O. nudicaule* L. fil. をのせている"とあるのは誤りで，帝国植物名鑑には *O. japonicum* Prantl, *O. nudicaule* L. fil. コハナヤスリ，および *O. vulgatum* L. ハナヤスリの3種がのつている。*O. japonicum* Pl. については和名をつけておられないが，これは恐らく松村博士が Prantl (1883) の発表をそのまま引用したものであり，その実体はおわかりになつて居らなかつたようである。何故なら，当時同博士が *O. japonicum* と同定なさつた標本は1枚も見られないからである。松村博士がハナヤスリ *O. vulgatum* と同定した標本が2葉東大にあるが (何れも1879年5月東京産：ラーベルの筆跡が松村博士のものであると，原教授に鑑定していただいた) この標本を中井博士は *O. pedunculossum* Desv. と同定し (1925)，次いで *O. reticulatum* L. ヒロハハナヤスリと同定された (1926)。中井博士はさらに *O. nudicaule* sensu Matsumura を *O. japonicum* Pl. と同じものであるとし，植物名鑑中の *O. japonicum*

sensu Matsumura を *O. vulgatum* sensu Nakai (1926) の異名としている。何故中井博士が *O. japonicum* sensu Matsum. を *O. japonicum* Pl. でないと決めたのか，また何故前者を *O. vulgatum* sensu Nakai と同定したのか，松村博士の同定した *O. japonicum*なる標本が一点もないので不明である。科学博物館に伊藤篤太郎氏が *O. japonicum* と同定した標本が 2 葉ある。1 つは no. 63210 で 1874 年に鹿児島桜島で採つたもので，これは現在の目で見ればコハナヤスリである。もう 1 枚は no. 64233 で 1923 年に仙台で採つたもので，これは明かに *O. vulgatum* である。このような事情を考えると，当時日本で認識されていた "*O. japonicum*" すなわち *O. japonicum* sensu Matsumura というものはあいまいなものであつたらしい。そのために中井博士がそれを *O. vulgatum* sensu Nakai の異名としてしまつたのであろう。1916 年に宮部工藤両博士が *O. japonicum* Pl. の再命名として *O. nipponicum* Miyabe et Kudo を発表した際に *O. japonicum* Pl. の文献として前記の植物名鑑をも引用している。そのため中井博士は *O. nipponicum* M. et K. も真の *O. japanicum* の姿をとらえていないと解釈されたらしく，それをも *O. vulganum* sensu Nakai の異名としてしまつた。後に宮部工藤両博士も *O. japonicum* sensu Matsum. と *O. nipponicum* M. et K. を *O. vulgatum* の異名にしている (北大農紀要 **26**: 1 1930)。しかしこの処置は先の小論中でもいつているように妥当なものでなく *O. japonicum* Pl. の再命名としてはどこまでも *O. nipponicum* M. et K. が有効である。日本産のハナヤスリを 2 つ認識したのは松村博士の植物名彙 (1895) 以前に帝国大学理科大学植物標品目録 (1886) があり，中に *O. vulgatum* L. ハナヤスリ *O. lusitanicum* L. コハナヤスリの 2 種，他に小笠原諸島産のものとして *O. ellipticum* Hook. et. Grev. ナカバハナヤスリがある。牧野博士は植物学雑誌 (1897) 中で，コハナヤスリは *O. nudicale* L. fil. であり，小笠原の *O. ellipticum* も "この 1 品に他ならず" としている。しかしハナヤスリといいコハナヤスリといい当時の認識は極めてあいまいなものであり，実体は何であるか不明である。1880 年頃まではハナヤスリ属植物は全てハナヤスリ 1 種として扱われ学名は *O. vulgatum* L. で代表されて来た。1900 年頃になり大小 2 型ハナヤスリ，コハナヤスリが区別されるようになり，前者には現在の *O. vulgatum* と *O.petiolatum* が，後者には *O. petiolatum* と *O. thermale* が含まれていた。この状態は中井博士のモノグラフ (1926) が出るまでつづいた。

先の小論中の文献引用の誤りを指摘し，適切な助言を下さつた都立大水島正美氏に感謝致します。(千葉大学文理学部)。

○高等植物分布資料 (9) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (9)

○オオハシカグサ *Hedyotis Lindleyana* Hook. var. *glabra* Hara 上野・越後等大体